

データセンター要件書

項番	大項目	小項目	要 件 項 目
1	立地	立地①	データセンターの周囲半径100メートル以内に消防法による指定数以上の危険物製造設備、火薬製造設備、高圧ガス設備がないこと。隣接建物から延焼防止の為に十分な距離が保たれていること。
2		立地②	地震調査研究推進本部が示す「今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」において6%未満の場所に設置していること。
3		立地③	最も近い海から50km以上離れていること。
4	建物	地震／免震基準	震度7の地震に耐えられ、建物の倒壊、崩壊の恐れがないものとし、更に建物内の設備、機器等にも損傷を与えない構造であること。また免震構造であること。
5		雷対策	JIS規格に準拠した避雷設備に加え、IEC(国際電気標準会議)の内部雷保護システムに対応した雷対策を講じていること。
6		接地	高周波(RF)／静電放電(ESD)の放電経路を設けていること。
7		床荷重	800kg/㎡以上の床荷重に対応可能であること。
8	電源設備	規格／基準等	消防法(昭和23年法律第186号)、建築基準法(昭和25年法律第201号)の関連国内法令、並びにこれらに基づく規格及び基準に準拠していること。また、通路幅は、十分な避難経路を確保、維持し、機器搬入に関して十分な通路幅と搬入口及び搬入経路が確保されていること。
9		受電方法	電力会社から2系統以上(本線・予備線)で受電していること。
10		二重化／無停電装置	法定点検や工事等により商用電力を停止する場合、機器類に給電を継続する措置として、電源設備の二重化等を行うこと。また、停電時は、自家発電機が起動するまでに、瞬断することなくサーバ機器に10分以上十分な電力供給が可能な容量を持つ無停電電源装置(UPS)が設置されていること。
11		非常用発電機	商用電力の供給が停止した場合、コンピュータシステムに影響を及ぼさない状態を確保できるよう十分な容量を持つ非常用自家発電設備が設置されていること。 自家発電設備は、商用電力の供給が止まった場合でも停止から1分以内(この間はUPSから電力供給)に電力が供給できること。更に、自家発電設備は、無給油で72時間以上連続運転可能であること。さらに72時間以上の燃料を備蓄していること。また優先的に燃料供給が受けられる契約を燃料供給会社と結んでいること。
12	空調設備	空調能力	サーバールームの機器等に対して十分な空調能力があり、24時間365日連続して稼働可能であること。機器等の安定稼働に影響を及ぼさないように、温度は24℃±2℃、湿度は50%±20%で保たれていること。
13		亜鉛ウィスカ対策	サーバ室は亜鉛ウィスカ対策を実施していること。
14		漏水検知	空調設備及び配水管周りに漏水検知システムを設置していること。
15	防火設備	防火設備	避雷設備、高感度の煙センサーでの火災報知設備、水を使用しない不活性ガス(窒素ガス等)による消火設備、非常照明設備の建築設備が設置されていること。
16	セキュリティ対策	運用管理①	データセンターは自社設備とすること。
17		運用管理②	データセンターの運用管理は、自社社員で行うこと。
18		認定資格①	情報セキュリティマネジメントシステム(ISO/IEC 27001)適合性評価制度の認定をうけていること。プライバシーマーク制度の認証によりプライバシーマーク使用許諾をうけていること。
19		認定資格②	総合行政ネットワーク(LGWAN)のASPサービス(ファシリティサービス)として登録されていること。
20		ビル入館	データセンターへの入退管理は、常駐する自社社員とセキュリティ管理システムにより、24時間365日実施されていること。
21		サーバールーム/入退室管理	入室ドアは十分な強度を持った防火扉等とし、サーバールームは外部から内部を見とせない窓なしとする等の対策を講じていること。 入退室管理は、入退室者を識別・記録できるセキュリティ設備(ICカード等)により、許可された者のみ入退室を可能とし、さらにサーバ室への入室はバイオメトリクス認証システムを採用していること。また、入退室者が記録媒体(CD、メモ리카ード、メモリスティック等)を不正に所持し、持出持込することができない体制であること。
22		ラック施錠	サーバールームのラックは、不正アクセスや不正操作防止のため鍵付きラックを使用すること。
23	ネットワーク	監視	サーバールームおよび館内、建物外周を監視するために監視カメラを設置すること。施設内の電源設備、空調設備、セキュリティ設備等は、常時故障監視および巡回監視を実施していること。また、サーバ室は、複数の監視カメラにて監視可能であること。
24		通信回線	複数の通信事業者の回線の引き込みが可能であること。通信回線は、100Mbps以上の帯域の専用回線が利用できること。
25		LGWAN	データセンターからLGWANへのアクセスポイントを冗長化すること。
26		環境対策	環境対策として、外気導入空調及びホット(コールド)アイルチャンバー空調を有していること。